

科目名	児童心理学				担当	多田 幸子		
形態	講義	単位数	2	開講時期	2年後期	実務経験	—	
必修	—				ナバリング	Y2302	DPとの関連	2
授業概要	乳幼児期に続く児童期の認知的、情緒的、社会的発達の特徴について理解を促すとともに、就学後の教科学習を支援するために必要なひとの学びの過程とその過程に関与する環境要因について解説する。							
到達目標 学習成果	1 発達心理学的視点から児童期の特徴、発達課題等について理解する 2 ひとや動物の多様な学習のかたちとそれらを説明する理論的枠組みを理解する 3 児童期の発達、教科学習に影響を及ぼす環境要因と学習環境整備の重要性を理解する							
授業計画	回	内容						
	1	学習とは何か：乳幼児期の学びと児童期の学び	学習の定義とともに、乳幼児期、児童期の発達の特徴を踏まえたうえでこどもの学びがいかに行進するかを解説する					
	2	学習の理論的枠組み 1：条件付け	ひとを中心に動物の「条件付け学習」を説明する各種理論を紹介する					
	3	学習の理論的枠組み 2：観察	ひとを中心に動物の「観察学習」を説明する各種理論を紹介する					
	4	学習の理論的枠組み 3：状況学習	ひとの「正統的周辺参加」を説明する各種理論を紹介する					
	5	学習の理論的枠組み 4：洞察、直観	ひとを中心に動物の「洞察」「直観」を説明する各種理論を紹介する					
	6	思考 1：良定義問題の解決	人が思考する文脈の中でも代表的な「問題解決」に焦点を当て、そこに見出される特定の傾向について解説する					
	7	思考 2：演繹と帰納による推論	人が思考する文脈の中でも代表的な「推論」に焦点を当て、そこに見出される特定の傾向について解説する					
	8	思考 3：確率判断	人が思考する文脈の中でも代表的な「確率判断」に焦点を当て、そこに見出される特定の傾向について解説する					
	9	学びの動機づけ 1：解説	学びを促進する動機について、内発的なものから外発的なものまでを解説し、動機づけを阻むものと克服に向けての援助について考える					
	10	学びの動機づけ 2：演習	内発的動機のもとに子どもの中で進展する個別学習の事例を紹介し、それらを支える環境要因について考える					
	11	学びの環境 1：校舎、教室、自宅	学校の物理的環境の影響を再評価し整備の手立てを考える					
	12	学びの環境 2：仲間、先輩、後輩	学校での学びの人的環境がもつ影響を再評価し整備の手立てを考える					
	13	学びの環境 3：教師との関係	学び手に対して教師が担う役割と教師が学び手であるこどもを評価する際に影響を与える要因について解説する					
	14	学習の評価、教育の評価、評価に影響をおよぼすもの	学校において実施される教育評価、学習評価についての理解を促し、評価の目的を確認したうえでさまざまなレベルの評価の活用法を考える					
	15	離れた場所で学び合うこども：世界規模の感染症を越える学校の挑戦	遠隔地でのこどもたちの学びの実態と学習の機会を守るための学校教育の取り組みを紹介する					
評価基準	児童期の発達の特徴、ひとの学習の特徴、学習を促進する環境要因について理解し、説明できる。また学齢期の学びに興味と関心を寄せ、自ら発展的に学ぼうとする態度を形成する。							
評価方法	期末試験 80% / ミニレポート 10% / 発問への応答等の授業への参与度 10%							
フィードバック方法	再提出を求める提出物は、授業内で示す期日までに添削し、返却する。授業時のパフォーマンスには基本的にその時間内または次週冒頭に講評を伝える。試験スコアは問い合わせがあれば個別対応する。(時期によっては伝えるまでしばらく時間を要する)							
アクティブラーニング	各授業回冒頭で個別、少人数で導入ワーク(認知課題、簡単な身体運動課題など)を実施する							
教科書	指定なし							
参考書	一例として『市川伸一 2011 学習と教育の心理学 増補版(現代心理学入門 3) 岩波書店』							
履修条件	こどもの発達と保育に関する他科目での学びと関連付けながら受講し、発展的な学習につなげる							
授業外学習	授業内で紹介する文献の講読、視聴覚教材の鑑賞、読後・視聴後の議論を積極的に行うこと							
オフィスアワー	学生支援課の掲示板に掲示する							